

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会・海部会編 vol.5



発行日：平成 27 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 28 回山部会・海部会合同WGを開催しました！

9月25日(金)～26日(土)に第27回山・海部会合同WGが東幡豆にて開催されました。今回のWGでは、山部会の議事、海岸の観察、漁協組合・漁業者の方々との懇談、トンボロ干潟でのフィールドワークを行い、山と海における活動報告と矢作川流域圏の課題について部会の枠を超えて検討しました。

日時：平成 27 年 9 月 25 日 (金) ～26 日 (土)
場所：東幡豆漁業組合 (会議室)
参加者：28 名 (山部会・海部会・事務局を含む)



◆主な会議内容

1. 山部会の議事



- (1) 山村再生担い手づくり事例集について
一昨年から、矢作川流域内で山村再生に関わる団体の取材を行ってきました。昨年からは山だけでなく川海に関わる団体も取材先として加え、東幡豆漁業協同組合にも取材させていただきました。今年は海部会の方にも取材者をお願いしたいと思います。
- (2) 矢作川流域山村ミーティングについて
次年度行う予定の矢作川流域フェスティバルにおいて、流域のプロとボランティア(素人)が技術を競い合うお祭りをしたいと考えており、現在検討中です。
- (3) 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて
矢作川流域での森づくりの現状を知っていただきたい観点から本日は岡崎市の取り組み(木の駅プロジェクト、緑のダム部会の創設)について紹介します。また、流域圏の自治体別の間伐状況、愛知県の素材の利用実態について報告します。
- (4) 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて
1つ目の柱として住民、業界、行政、教育から「さあ~しよう」というテーマで木づかいに関する情報を収集しています。2つ目の柱として木の魅力を発信するスギダラキャバンを進めています。3つ目の柱として木を使ったアイテムを流域に広める活動をしています。



2. 海岸の観察



ここでは干潮時に現れる干潟によって、港から前島に歩いて渡ることができるトンボロ現象がみられます。愛知県では珍しい場所であり、大切な観光資源でもありますので、流域の方々によく知ってもらいたいです。



3. 漁業組合・漁業者の方々との懇談



今回は山部会と海部会が合同で行う初めての会議です。通常、山部会はもとより海部会の会員にとっても漁業関係者の話を生で聞ける機会は珍しいと思います。そこで、漁業関係者がおかれている現状や山部会に対する要望など、部会の枠を超えて話し合いました。



4. トンボロ干潟周辺におけるフィールドワーク



- ・ゴミや流木の問題は、流域連携テーマにもなっています。トンボロ干潟では流木の問題は小さいですが、ゴミについてはペットボトルや空き缶など、いわゆる生活系のものが多くみられました。
- ・矢作ダムの砂の投入箇所周辺にはアサリが密集して生息していました。今後の砂の浸食と堆積を把握するためにリング法による計測を開始しました。
- ・干潟の生き物については、石川組合長より説明がありました。



リング法による干潟の計測開始

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山部会の議事について (参加者は、山部会員および海部会員)

<①山村再生担い手事例集について>

- ・これまでの活動では、取材先と取材者の間で林道をつくったり街中のイベントを行ったり、新しい展開が生まれつつある。流域の中でも自分の活動範囲にないところに交流ができる良いきっかけとなるので、海部会の方にも参加をお願いしたい。(洲崎)

<②矢作川流域圏山村ミーティングについて>

- ・漁業の世界では1ターンの定着率が非常に悪いのが現状である。それは、地域に本物の人材を育てる覚悟がないためである。林業の1ターンの受け皿はどうか(鈴木)
 - ▶ 上流域においては、総合的な1ターンの受け入れは比較的充実している。しかし、林業に焦点をあてると、漁業と同じ現実がある。(丹羽)
- ・根羽村で検討しているのは、「農地と林地だけでなく家を用意する」ことで、夢や希望が持てるのではないかと。家があれば、元々自然が大好きな人が集まるため、給料は安くても何とかかなと思う。(今村)

<③矢作川流域圏森づくりガイドラインについて>

- ・昔は漁港ごとに必ず水産加工場があった。漁獲量が多く値崩れを起こしている産品を買い上げて、地域ごとの一定の価格を維持していた。しかし、今は水産加工業が消えて、価格の緩衝機能をもたなくなった。こういう流れは、林業でも同じではないか。(鈴木)
 - ▶ 日本の山を伐採するかなりの業者が、山から直接製材する形態がとられ、丸太が流通しなくなった。(蔵治)
- ・丸太の消費減少に関して、今は貯木場の機能が減退した。一部の反対者はいるものの、積極的に貯木場をつぶしているのが現状である。素材の需要量の減少と海の貯木場の減少が大きくリンクしていると思う。(鈴木)

<④矢作川流域圏木づかいガイドラインについて>

- ・流域ものさしの長さは1.8mでよいか。(蔵治)
 - ▶ 統一規格としては、実物の100万分の1の11.8cmにして、あとは自由とする2種類を考えたい(今村)
- ・環境省の緑の国勢調査の結果を使って、この10年で流域にどんな変化があったのかをみると面白い。(洲崎)
 - ▶ これは事務局補佐のアジア航測が得意技であるため、是非お願いしたい。(蔵治)
 - ▶ 作成する。(中田)
- ・せっかく山と海を結ぶという会議なので、夏休みに宿泊を組み込んだ市民参加型の筏下りをしてはどうか。(太田)
 - ▶ 次年度から矢作川流域フェスティバルという行事を企画している。それは、これまで川を主体としてきた川会議を山川海の人々を楽しくつなげるイベント的な行事にしたいと考えていて、10年前まで行われていた筏下りも復活させようと考えている。(洲崎)
- ・流域キャラバンは、夏休みの子どもたちを対象に、茶臼山の源流地点から河口までを自転車で下るイベントも考えている。流域を知ることが次世代を育てる重要なカギだと思う。(今村)

●漁業組合・漁業者との懇談

- ・漁協者の希望は①ミネラルの豊富な水を流してほしい。②良質な砂を流してほしいということだ。(石川)
- ・近年の水質は悪化しているのか。(井上)
 - ▶ 夏に海底の酸素がなくなる貧酸素によって、魚が死ぬ確率が高くなっている。(鳥居)
 - ▶ 今まで貧酸素になる原因は、陸からの流入負荷(窒素とリンが流入したため)と考えられてきた。ところが、流入負荷が軽減しても一向に水質が改善されなかった。それは、干潟・浅場・藻場の埋め立てが原因だったのである。そもそも、海が健全であれば、少々の陸の問題など消し去るくらいの緩衝能力を持つことが証明されている。ところが、その緩衝能力を壊したので、余計に陸域の問題に敏感になってしまったというのが現状である。(鈴木)
- ・海の漁業資源と担い手の良好な循環が形成される地域は日本に存在するか。(丹羽)
 - ▶ 名古屋港に近い鬼崎では、海苔と小型底引き網を使う漁業が行われている。近年では若い世代がスキューバを使った採貝を行ったり、スキューバ教室をしたり都会との接点を持ち続けて収益を上げている。(鈴木)
- ・海を壊滅的な破壊に導く開発については、漁業者がはっきり声を上げていくことが重要である。(鈴木)

●トンボロ干潟と合同部会全体の意見・感想など

- ・海ゴミの中で、国はマイクロプラスチックの全国調査を行っている。前島では岩場のペットボトルが目につき、現状を目にすることができた。(石垣)
- ・日頃は海部会に出席することが精いっぱいになっている。今後も合同部会を企画していただきたいと思う。(青木)
- ・土砂の移動には、木の駅同様に「砂の駅」を流域につくり、市民の力で少しずつ河口に運んでほしい。(丹羽)

今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の山部会WGは、10月16日(金)~17日(土)岡崎市にて開催します。(海部会は今後決定)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください

